

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年10月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地	鹿児島市坂元町161-4 (電話) 099-247-5055
自己評価作成日	令和元年9月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和元年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節の行事(お花見・お食事会・合同夏祭り・敬老会・コスモス見学・クリスマス会等)や、誕生会(2ヶ月に1回)、家族会などに家族の方にも参加の呼びかけを行い、入居者、職員、ご家族が一体となって楽しく過ごせるように取り組んでいる。

・朝、夕の体操を毎日実施すると共に、個々人の体力に応じてストレッチなど取り入れたり、下肢筋力低下防止の為、立位訓練や車椅子の自操を見守るなど残存機能の維持に努めている。散歩等の外気浴を実施し、気分転換が図れるようにしている。

・地域の町内会に加入すると共に、職員が消防分団に在籍。町内の行事(町内会の夏まつりや敬老会、校区生涯学習発表会等)には入居者や職員が参加させて頂いている。又、二月に一回の合同清掃作業では近くの公園や町内会のごみ拾い等を行い、地域の一員としての役割を果たすように努めている。

・運営推進会議、家族会など定期的に実施しご家族始め地域の方や長寿安心相談センター職員、関係者の方々にホームの現況報告を行い頂いたご意見・ご助言などを下に日々の運営に活かせるように努めている。

・有事の際の防災対策として町内会との防災組織を立ち上げ、それと連動した地域の近隣の福祉施設や事業所との連携を構築している。

・個々人の生活のペースを大切にしつつ、日々の生活が活気あるものになるように、1階2階の合同レクや、食事会などを実施し、入居者同士と共に職員との馴

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市の中心地から数キロメートル離れた住宅地に系列法人のデイサービス事業所、小規模多機能ホーム、有料老人ホームに隣接して設置されており、周辺には郵便局や金融機関、レストラン、個人住宅等が立ち並んでいるが、幹線道路から少し控えた場所のため騒音等はなく、静かで落ち着いた環境である。4事業所は勉強会や、防災訓練を合同で開催する等、協力体制が築かれている。

開設して13年が経過し、地域密着型事業所として地域に周知が図られ、イベントへの参加やボランティア、学生の実習を積極的に受け入れるなど円滑に交流がなされている。地域の「いきいき交流会」の開催には会場を開放し研修も実施して交流し、住民から寄せられる認知症ケアに係る相談等にも適切に助言している。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域の中で、その人らしく生きがいのある暮らしの支援に努めており、ケアの姿勢「日常の5心」も掲げて、誇りや尊厳を大切に利用者主体の最善のケアとなるように取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望の把握に努め、サービスの改善に取り組んでおり、厚い信頼関係が築かれている。

管理者は、職員の和や信頼関係、協力体制の構築が大切と考えており、日頃から気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努めて意見や要望を把握し、個人的事情にも配慮しながら運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。研修の実施や業務に対する助言・指導を積極的に行い、有給休暇取得の促進や勤務シフトに本人の意向を反映させるなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域に信頼され人々との交流が自由に出来るように配慮します…」という理念をリビングに掲げ、毎日朝礼時に唱和し実践につなげている。	地域密着型サービス事業所として意義を理念に掲げ、基本方針やケアの指針「日常の5信」と共に玄関やリビング等に掲示し、毎朝唱和も行って共有を図っている。日々の申し送りや毎月の職員会議でケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿ったケアの実践に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入すると共に職員が地域の消防分団に在籍している。又、事業所、町内会双方の行事等お互いが積極的に参加する事で、日常的な交流が図れるようにしている。	町内会に加入して地域の人々と清掃活動に取り組み、校区の運動会、敬老会、生涯学習発表会、夏祭り等にも積極的に参加している。ホーム主催の花見や敬老会、クリスマス会等の行事には地域の人や家族の参加があり、園周辺の散歩時には会話を交わし、ボランティアや学生の実習も積極的に受け入れるなど日常的に交流している。地域の「生き生き交流会」の開催には法人の施設を開放し、テーマを決めて研修等も実施して交流しており、利用者はこれらの交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	6事業所合同による認知症に関する研修会やいきいき交流会としての地域の集まりに場所提供を通して、地域に貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、ホームの現況、評価への取り組みなどを報告すると共に、地域や家族から情報や助言を頂き、業務の改善に取り組んでいる。	会議は、利用者、家族、民生委員、地域住民、地区消防分団、市長寿安心センターの職員等が参加して定期的開催しており、ホームの現状や行事計画、活動内容、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からはケアに関する質問や意見、地域の高齢者に関する情報等が出されて、熱心に意見交換している。職員は内容を会議録で共有し、職員会議等で協議してサービスの向上繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が実施する説明会や研修等に参加するようにしているが、必要に応じて市役所、長寿安心相談センターに電話以外にも直接出向いて、助言や指導を頂いている。又、相談員を受け入れ、第三者の意見等を取り入れている。	市担当職員には、日頃から介護保険の認定や更新、各種制度の手続きや報告、ケアや施設運営に関する相談等を電話や訪問して行い、丁寧な助言・指導を受けるなど協力関係を築いている。市や社会福祉協議会主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政や他施設職員との情報交換に努め、業務やサービスの改善を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け勉強会などを行うとともに、グループホーム内での定例の会議を行っている。又、メディアの報道等を受け朝礼・終礼時等において職員に周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない拘束に関しては、同意書を頂いている。	身体拘束に関するマニュアルや指針を整備し、計画的な研修の実施や毎月委員会も開催してケアの振り返りや意見交換を行うなど、適正化に取り組んでいる。また、身体拘束や高齢者虐待に関する報道を基に意見交換を行って職員の認識を深め、拘束のないケアに努めている。職員は、日頃から利用者個々の心身の状況把握に努めており、日中は施錠は行わず利用者の見守りや寄り添いに心掛けて安定を図り、拘束のない自由な暮らしに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員を対象に高齢者の虐待の講演会や勉強会を行い、職員間で周知を図り、虐待防止に関する理解と実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修会があれば積極的に参加するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書及び、看取りに関する指針に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった場合の対応、退去を含めた事業所の方針等について理解・同意を頂いてから契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と信頼関係を築く事を常に心掛け、不満などをなるべく事前に察知するようにして、何時でも自分の気持ちが表出できるように支援する。又、意見箱の設置及び、いつでも電話や面会時に意見や苦情などを聞く機会を設け、運営に反映している。	日頃のケアの中での対話や表情、仕草等から利用者の想いの理解に努めており、家族からの要望は来訪時や電話での対話や家族会（年2回）、意見箱の設置、情報紙の発行等、日頃から気軽に意見等を述べて貰えるように工夫して把握している。出された意見等は引き継ぎ時や業務日誌等で共有し、迅速に運営やサービスの向上に取り入れており、家族にも対応状況は報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、終礼や月例職員会議の時、又、委員会活動(おごじょプロジェクト)の一環として、職員は気づいた事を記載し、管理者に提出する事で意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、業務の中や職員会議、個別面談等で意見や要望を把握し、必要に応じて個人の悩み等も聴取しており、出された意見や要望等は協議して改善を図っている。スキルアップを図るため研修の実施やケアへの助言に努め、有給休暇取得の推進や勤務シフトに職員の意向を反映させるなど、意欲の向上と働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は施設長、理事長と常に連携を取り、職員の勤務状況の把握や給与・休日面でも考慮し、働きやすい環境作りに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修開催の案内を連絡簿に綴る事で、職員の参加を促している。又、その研修内容を職員会議の時報告し、職員全員で勉強する機会を設けている。又、法人全体で開催するキャリアパス研修に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で本人の生活歴や現在の生活状況などの把握を行い、本人や、家族などから話を聞いた上で、不安や問題点について理解し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人の生活歴、家族関係を把握した上で、家族が困っている事や要望等に耳を傾けるなど、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人や家族にとって一番に必要な支援は何かを見極め、現況の改善に向けた提案等をしている。必要や希望があれば、他のサービスも提案するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の日々の言動に常に關心を持ち、言葉の裏側にある思いをくみ取り、ともに暮らしの中で共感し支えあえるような関係作りに努めている。逆に入居者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を送付する事で、日々の暮らしや生活の中での出来事や気づきを家族と共有するように努め、家族も行事などへ参加して頂き、共に本人を支えていく関係を築くことに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援を得て、お墓参りや外食等へ出かけている。又何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなく出来るような雰囲気作りを心がけている。	利用者の生活歴や家庭環境等を把握し、馴染みに関する情報を共有している。家族や友人の来訪時には話しやすい場に配慮し、利用者の希望に沿って買い物や一時帰宅、外食、墓参等を家族と連携して支援している。遠方の家族には利用者の近況をメールや情報紙等で伝え、電話や手紙の取り次ぎも行なうなど、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間を大事にし、一人一人が孤立しないように、毎日のお茶の時間には職員も中に入り、利用者同士のコミュニケーションを図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後なども、必要とされる利用者や家族に対しては、相談などに応じ継続的なかわりを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、言葉や表情から隠れた思いを推し測り、本人や家族の意向と異なる場合は、接点が図れる様に努めている。又、困難な場合はカンファレンスを行うようにしている。	利用者の思いや意向を日頃の会話や表情、仕草等で把握に努め、生きがいのある、その人らしい暮らしとなるよう家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（日記帳、編み物、ぬり絵他）や家事（調理の手伝い、食後の片付け等）への取り組みを進め、心身の状況に配慮しながら個別の支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人やご家族の生活歴などの聞き取りを行うと共に、以前利用されていた事業所の職員からも情報を得るように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、経過記録等を通して利用者の生活リズム（食事、排泄、生活習慣等）を把握し、本人の出来る事に注目し、全体像をつかむようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って毎月モニタリングを行い、最低でも六ヶ月に1回は家族も含めカンファレンスを行っている。又、朝夕礼での申し送りをしっかり行う事で、情報や意見等を介護計画に生かしている。	本人や家族の意向や希望、主治医や看護師を含む関係者からの情報を共有し、毎月のモニタリングやカンファレンス等で意見交換を行い、利用者主体のきめ細かな介護計画を作成している。支援の状況は業務日誌やバイタルチェック表等に具体的に記録し、利用者や家族の状況の変化に応じて、計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の入居者の様子や実施したケアは経過記録に記し職員間で情報を共有しながら、重要なことはカンファレンスを行い、日々のケアや介護計画の見直しに活かすように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>職員もその時々に変化するニーズに応えられる様に、研修会や勉強会などへの参加を行い、スキルアップを図るようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>有事の際の地域の方や、隣接する福祉施設や金融機関等との協力支援体制を構築している。又、地域のボランティアの方も積極的に受け入れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は、本人、家族の意向を第一とし、協力機関の病院や他病院への受診を家族の支援を頂くと共に、家族の希望があれば訪問診療や機能向上の為に、訪問リハを受け入れている。</p>	<p>各利用者の病歴等を把握し、本人が希望する医療機関での受診を家族と連携して支援しており、訪問診療や歯科訪問診療、訪問リハビリも実施されている。受診の状況や体調等は家族にも密に連絡し、日頃から健康管理の徹底や協力医療機関との連携の体制も構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は日々の利用者の様子を把握すると共に、介護職員との情報交換を密に行い、個々の利用者が適切な受診や治療が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはホームでの本人の身体状況・レベル・生活上でのこだわりなどを情報提供し、入院中の生活が円滑に行くように支援している。又、家族や医療関係者との連携を図り、退院時にはサマリーなどを頂き、ホームの生活に早く戻れるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護に対する指針について契約時に説明している。その上で事業所で出来ることを説明し、家族と方針を共有するようにしている。</p>	<p>重度化や終末期のホームのケアは、「看取りに関する指針」を整備して、利用開始時に本人及び家族の理解を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族及び関係者は話し合いを繰り返しながら可能な限り希望に沿った支援体制で取り組んでいる。重度化や急変時対応の勉強会も実施して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。現在、看取り体制や指針を見直し中である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応について個別毎にマニュアル化していると共に、年間計画の中で定期的に基礎救急救命講習会を開催して、心肺蘇生法、AEDの取扱いを習得している。事業所内にはAEDを設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施し、夜間を想定した避難訓練も実施している。万一、火災・災害発生時は、近隣の住民や協力施設の方からの応援体制を取っている。又、職員が地域の消防分団に入団している。</p>	<p>年2回夜間想定を含む通報、消火、避難等の防災訓練を住民も参加して、隣接のディサービス事業所や小規模多機能ホーム、有料老人ホームと合同でパターンを変えながら実施し、法人独自の災害対応の基準も定めている。日頃から避難経路の確認やマスコミによる災害情報をもとに意見交換等を行って防災への認識を高め、事業所間及び地域住民との協力体制を構築している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの接し方において言葉遣いに気をつけ、人格を損ねないような対応を心がけている。又、排泄や入浴時等のプライバシーにも配慮するようにしている。	プライバシーの確保や個人情報保護については職員会議や勉強会での研修の実施やケアの振り返り等で認識を図り、ケアに際しては、誇りやプライバシー確保に配慮した言葉づかいに日頃から努めている。各居室やトイレ、浴室等はプライバシーに配慮した構造になっており、利用者に関する台帳類も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を言葉だけのコミュニケーションだけに留まらず、本人の動きや目の表情などを読み取った上での言葉掛けを行う事で、本人が自己決定出来るように支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否のある入居者は順番や日にちを変更するなど、個人の意向に沿えるようにしている。又、生活リズムやペースを尊重しつつ、周りとの協調性も図れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個人の選択を尊重しつつ、さりげなく助言し、出来るところはしていただき、出来ないところを支えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲を五感に訴え、食事が楽しみとなるように心がけている。嫌いな物は出来る範囲で代替品を又、嚥下の悪い方にはお粥やミキサー食を提供している。台拭きや下膳後のお盆拭き、ホワイトボードへの献立の記入など個人の能力に応じてお願いしている。	食事制限や形態、栄養バランス、季節感等に配慮し嗜好調査も年2回実施して献立に反映させている。利用者と職員と一緒に歓談しながら食事しており、食材の下処理や下膳等は利用者も楽しみながら行っている。正月や彼岸、誕生日等の行事食や手作りのおやつ、外食、家族との会食、弁当持参の花見など食事が楽しみなものになるよう工夫し、利用者毎に食事や水分の摂取状況の把握や口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表で食事、水分の摂取量を記録、把握し、一人ひとりの嚥下状態に合った摂取が出来るように支援している。週2回はコーヒーの提供、夏場は毎日、麦茶やポカリなどで補水するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助をしている。義歯については定期的に洗浄剤での除菌を図っている。又、必要に応じて歯科の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレで気持ちよく排泄が出来るように声掛け見守りの支援をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めている。便秘の予防には、植物繊維の多い食材や水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医とも連携して改善を図っている。トイレ誘導や衣服交換時のケアは、利用者の尊厳や羞恥心、プライバシー保護に配慮して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促す事を基本に、毎日の朝食にヨーグルトの提供や適度な散歩等の運動を実施している。特に便秘がひどい場合は、主治医と相談し、緩下剤で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応、入浴の曜日や時間帯は決めているが、強い入浴拒否のある入居者に対しては声掛けを工夫し、自然に入浴が出来るように柔軟な対応を心掛けている。	基本週3回の入浴を、利用者の心身の状態に配慮しながら支援している。利用者の好みの温度や時間、同性介助、シャンプー等は柔軟に対応し、気持ち良く楽しめるように取り組んでおり、入浴後は水分摂取や化粧水や乳液の塗布、皮膚疾患の処置等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間、順番、声掛け等を工夫して、利用者自身で意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のニーズ、状況に応じて休息を支援している一方、レクや体操など日中の活動を活発にすることで、昼夜逆転を防止している。又、小まめな空調管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに病歴や内服薬の状況を綴じ、何時でも見られるようにしている。症状の変化があれば、上司・看護師に連絡し主治医の判断を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや洗濯物たたみ、お盆拭きや下膳などの手伝いを行う中で、一人ひとりの力を活かせるようにしている。又、「戴きます。」等の音頭とりをして頂く事で、役割感を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホームの庭を全員が順番で散歩したり、定期的にご家族と外食や散歩をされるなどして気分転換を図っている。又、隣接するデイサービスでの慰問者による踊りなどの行事に参加している。	外出に対する利用者の意向を、日頃の会話等で把握し、健康状態や天候等に配慮しながら、園庭や近所の公園への散歩や、ミニドライブ、買い物、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して取り組んでいる。家族同伴で護国神社の初詣や地域行事への参加、弁当持参の花見、外食など、ホーム全体での外出も積極的に実施してリフレッシュを図っており、利用者の楽しみとなっている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の把握の下、本人で少額のお金を所持している。その他必要に応じて預かり金から出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎを支援し、又必要があれば電話をかけられるよう仲介している。手紙や写真等の郵便物が来たら、本人とともに喜びを分かち合うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にカーテンや照明で光の調節を行うと共に、居室によっては、窓にフィルムを貼りプライバシーを守っている。リビングには皆さんで作成した壁画など季節感のあるものを掲げている。対面式のキッチンで調理の状況が見え、食欲をそそる音や匂いが漂い生活感を大事にしている。	ホーム全体がバリアフリーの構造で、廊下やリビング等は余裕のあるスペースが確保されている。随所に利用者の作品等が掲示され、清掃や空調、感染症予防にも十分配慮して、和やかで清潔感のある空間となっている。リビングにはテーブルセットやテレビ、ソファ等が利用者の動線や利便性に配慮して置かれ一角には対面式の台所も設置されており、利用者は調理の音や匂いを感じながら、好みの場所で平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの一角にはソファを置き、入居者やご家族がくつろげるスペースにしている。又、童謡などのBGMを流し、一人一人が口ずさまれていたりしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブル、パイプハンガーなど持ちこまれ、使い勝手を良くする等、居心地良い空間作りをしている。又ご主人やお孫さんなど家族の写真を飾られている方もある。</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓の仕様で明るく余裕あるスペースとなっており、ベッドやエアコン、タンス、洗面台が備えてある。利用者の意向を確認しながら整理整頓を日常的に支援している。利用者は家庭同様に落ち着いて憩える暮らしとなるように、使い慣れたテレビや仏壇、テーブル、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品も飾る等、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入り口にはご本人の写真と名前、花の絵を掲げ、又、目印になるような物を付けて気づきやすいようにしている。トイレは分かりやすいように絵文字で表示。ホールやトイレ、浴室、必要な居室には手摺を設けて安全面で考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	リビングに掲げた「地域に信頼され人々との交流が自由に出来るように配慮します」という理念を、毎日朝礼時に唱和し、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入すると共に地域の消防分団に職員が加入している。又、町内会、施設のお互いの季節毎の行事等に積極的に参加する事で、日常的な交流が図れるようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	6事業所合同による認知症に関する研修会に地域の方々にも参加をして頂くと共に、いきいき交流会の場所を提供して、地域の方々との活発な交流の場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、ホームの状況報告、評価への取り組みなどを報告すると共に、地域や家族からの情報や助言を頂いた上で、業務の改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市が実施する説明会や研修等に参加するようにしている。又、必要に応じて市役所、長寿安心相談センターに電話以外にも直接出向いて、助言や指導を頂いている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事業所合同の身体拘束廃止委員会を月1回、又、グループホーム単独での会議を3ヶ月に1回開催し、勉強会などを行うとともに、メディアの報道等を受け朝礼・終礼時等において職員に周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員を対象に高齢者の虐待の講演会や勉強会を行い、内容について職員間で周知を図り、虐待防止に関する理解と実践に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会への参加や事例を通してのカンファレンスを行う事により、権利擁護を身近なものとして捉え、必要に応じて家族と情報を共有して活用できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった場合の対応、退去を含めた事業所の方針等について理解・同意を頂いてから契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と信頼関係を築く事を常に心掛け、不満などあれば何時でも自分の気持ちが出出できるように支援するように支援する。意見箱の設置や家族会や面会時において、カンファレンスを行い意見や苦情など聞く機会を設け、運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・終礼や月例職員会議時、又、委員会活動(おごじょプロジェクト)の一環として、職員が気づいた事を記載する「気づき」の用紙の提出に対して、管理者はコメントを記入。その結果について職員に報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況の把握や給与・休日面で考慮し、代表者は職員が働きやすい職場であるように努めていけるように、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の開催の案内などを連絡簿に綴り、見たらサインをすることにより職員への周知を図っている。又、研修に参加したら研修内容を職員会議の時報告し、職員全員で勉強するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修に参加している。又、地域連携防災会議を通して、防災以外でも他施設との交流の場を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で本人の生活歴や現在の生活状況などの把握を行い、本人や、家族などから話を聞いた上で、不安や問題点などについて理解するようにして、信頼関係が築かれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困り事や不安が何なのかを話の中で良く聞き取り、そのニーズに応えられるように、これまでの本人の生活歴、家族関係を把握することで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本当に望んでいる支援は何かを見極めるとともに、今の状況の改善に向けた支援の提案等をしている。必要や希望があれば、他のサービスに繋げるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お盆拭きや、ごみ箱作りなど、できる事をして頂き、本人が自信を持って生き生きと生活が出来るよう支援し、共に暮らしをしている者同士の関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を送付する事で、日々の出来事や気づきを家族と共有している。又、家族も行事などへ参加して頂くことで共に支えているという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなくでき、落ち着いて話ができる雰囲気作りを心がけている。又、家族の支援を得て、墓参りや法事などへ出かけられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク等において全員が参加できるように個々人に見合った方法を工夫をして、一人一人が孤立しないようにしつつ、利用者同士の関係やコミュニケーションを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要とされる利用者や家族に対しては、何時でも相談に応じ継続的なかわりを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、言葉や表情から隠れた思いを推し測り、意向にそえる様に努めている。困難な場合、カンファレンスの実施、家族への相談、又、看護師、主治医等から意見を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で生活歴などについて、本人や家族から聞き取りを行い、馴染の物や写真などを持参して頂くなど入所されてからの生活に不安が少しでも生じないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、経過記録等を通して利用者の生活リズム（食事、排泄、生活習慣等）を理解し、その日の本人の心身状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って毎月、モニタリングを行っている。六カ月に1回は家族も含めカンファレンスを行い、課題を見直している。看護師、主治医、薬局等からも助言を頂き、ケアプランに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や実施したケアは経過記録に記し職員間で情報を共有しながら、重要なことはカンファレンスを行い、日々のケアや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が様々なニーズに対応できるように、研修会や勉強会などへの参加を積極的に行い、スキルアップが図れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する金融機関等の協力支援体制がある。又、協力医療機関との連携を保ち、何かあれば、相談し健康に暮らせるように支援している。又、ボランティアも積極的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族等の意向を第一とし、協力機関の病院や他病院へ継げられるように連携を図っている。移動手段が車椅子の方が多いため、訪問診療をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の利用者の様子を介護職員などからも見聞きし、個々の利用者が適切な受診や治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの本人の身体状況・レベル・生活上でのこだわりなどを情報提供し、入院中の生活が円滑に行くように支援している。又、家族や医療関係者との連携が取れるように努め、退院時にはサマリーなどを頂き、ホームの生活に早く戻れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に対する指針について契約時に説明している。その上で事業所で出来ることを説明し、家族と方針を共有するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について個別にマニュアル化している。又年間行事計画の中で定期的に基礎救急救命講習会を開催して、心肺蘇生法、AEDの使い方など職員が習得している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施し、夜間を想定した避難訓練も実施している。万一、火災・災害発生時は、近隣の住民や協力施設の方からの応援体制を取っている。又、職員が地域の消防分団に入団している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの接し方において言葉遣いに気をつけ、人格を損ねないような対応を心がけている。又、排泄や入浴時等のプライバシーにも配慮するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に徹する事は勿論、本人の意思を言葉に限らず、動きや目の表情などで読み取り、その方の能力に合わせた話しかけを行い、本人の自己決定を引き出すような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムや、ペースを尊重しつつ、周りとの協調性も図れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個人の選択を尊重しつつ、さりげなく助言し、出来るところはしていただき、出来ないところをお手伝いするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲を五感に訴え、食事が楽しみとなるように心がけている。食べれない物は代替品で、又、咀嚼の悪い方には小さく刻み提供している。台拭きや下膳、お盆拭き、ホワイトボードへの献立の記入など個人の能力に応じてしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分の摂取量を把握し、一人ひとりの嚥下状態に合った摂取が出来るように支援している。夏場は特に水分補給に注意し、ポカリなどで補給できるように支援している。又、週1回、コーヒー等を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、必ず、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助をしている。義歯は定期的に洗浄剤での除菌を図っている。又、必要に応じて歯科の往診を受けるようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的に声掛けを行なうことにより排泄の失敗を少なくし、トイレで気持ちよく排泄が出来るように支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取と、毎朝のヨーグルトの提供に加えて、食事の工夫や適度な散歩等の運動を実施するように支援している。特に便秘がひどいときは、主治医と相談し、緩下剤で調整している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応入浴の曜日や時間帯は決まっているが、一人ひとりの希望やタイミングがあるので、その都度、柔軟な対応を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや体操など日中の活動を活発にすることで、昼夜逆転を防止すると共に、個々人のニーズ、状況に応じて昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに病歴や内服薬の状況を綴じ、何時でも見られるようにしている。症状の変化があれば、上司・看護師に連絡し主治医の判断を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや洗濯物たたみ、お盆拭きや下膳などの手伝いを行う中で、一人ひとりの力を活かせるようにしている。又、「戴きます。」等の音頭とりをして頂く事で、役割感を持つようになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ローテーションで全員がホームの庭を散歩。外気浴通して気分転換を図っている。又、家族の支援を頂き散歩や墓参りに行かれたり、隣接するデイサービスでの慰問者による踊りなどの行事に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の力量に応じて対応しているが、本人の希望があれば必要に応じて預かり金から出すことで納得して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取り次ぎや、掛けるのは個人の力量に応じて対応し、支援している。手紙や写真が来たら本人に直接渡すと共に職員も感情を共有するようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンや照明で光の調節を行い、音楽、テレビの音も不快感がない様に配慮している。ホールには皆さんで作成した壁画など季節感のあるものを掲げている。対面式のキッチンで調理の状況が見え、食欲をそそる音や匂いが漂い生活感を大事にしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの一角にはソファが置いてあり、入居者やご家族がくつろげるスペース作りをしている。昔懐かしい童謡などのBGMを流し、思い出づくりをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇や椅子、パイプハンガー等、個人の所有物を持参して頂き、使い勝手が良く居心地の良い空間作りに努めている。又、ご家族やご本人の写真を置き、安心して過ごせるよう工夫をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入り口にはご本人の写真と名前、花の絵を掲げている。又、トイレは分かりやすいように絵文字で表示。ホールやトイレ、浴室、必要な方の居室には手摺を設けて安全面で考慮している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない